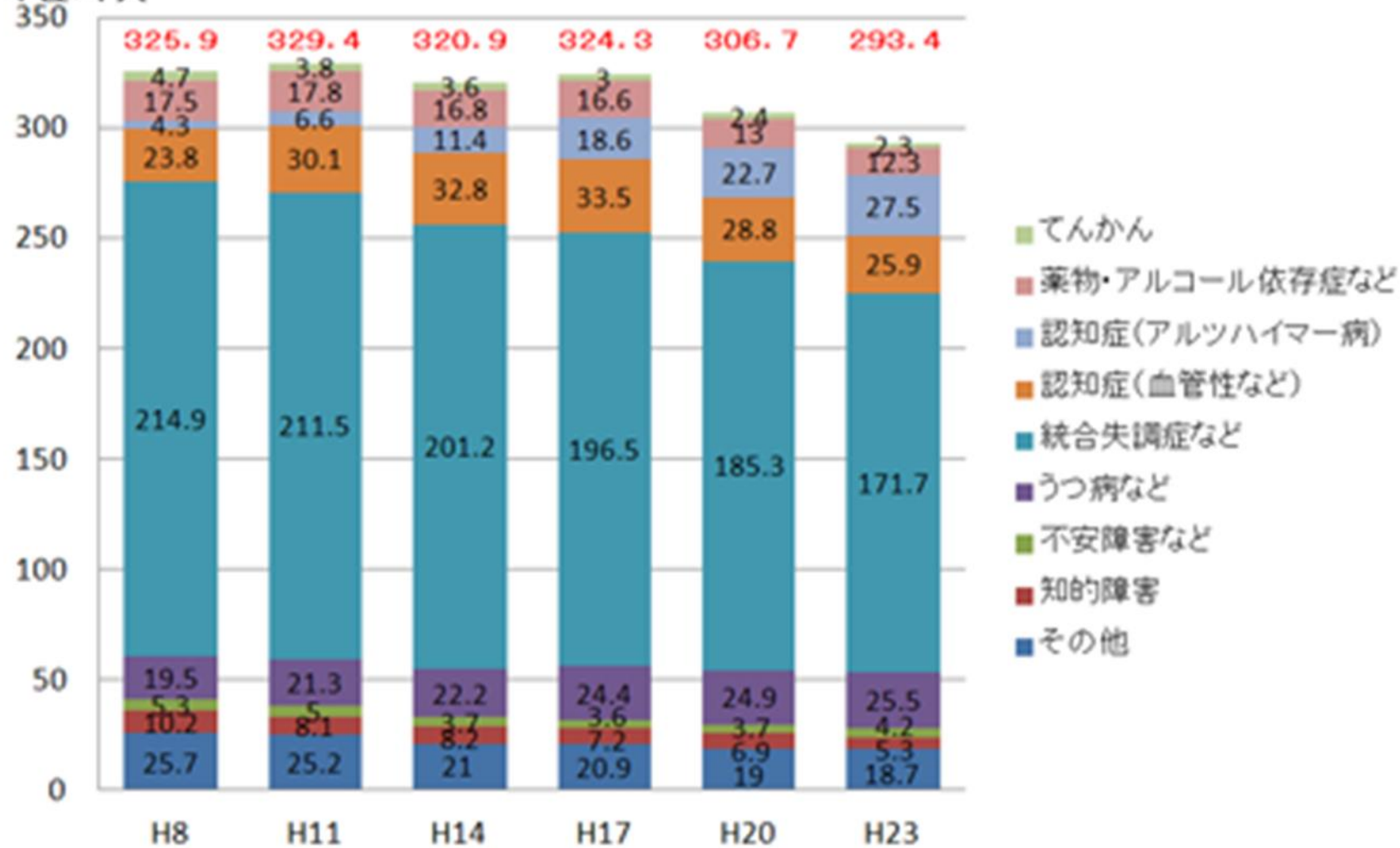


# 精神病床入院患者の疾病別内訳

単位:千人

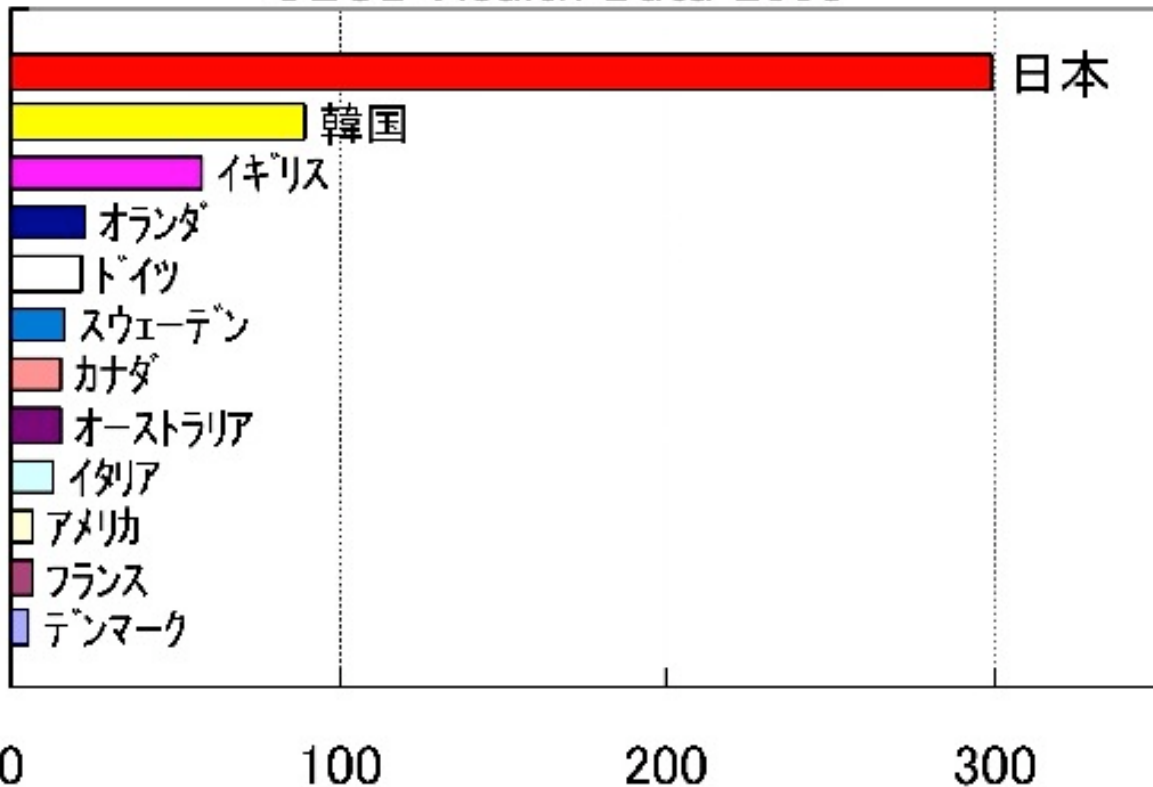


※H23年の調査では宮城県の一部と福島県を除いている

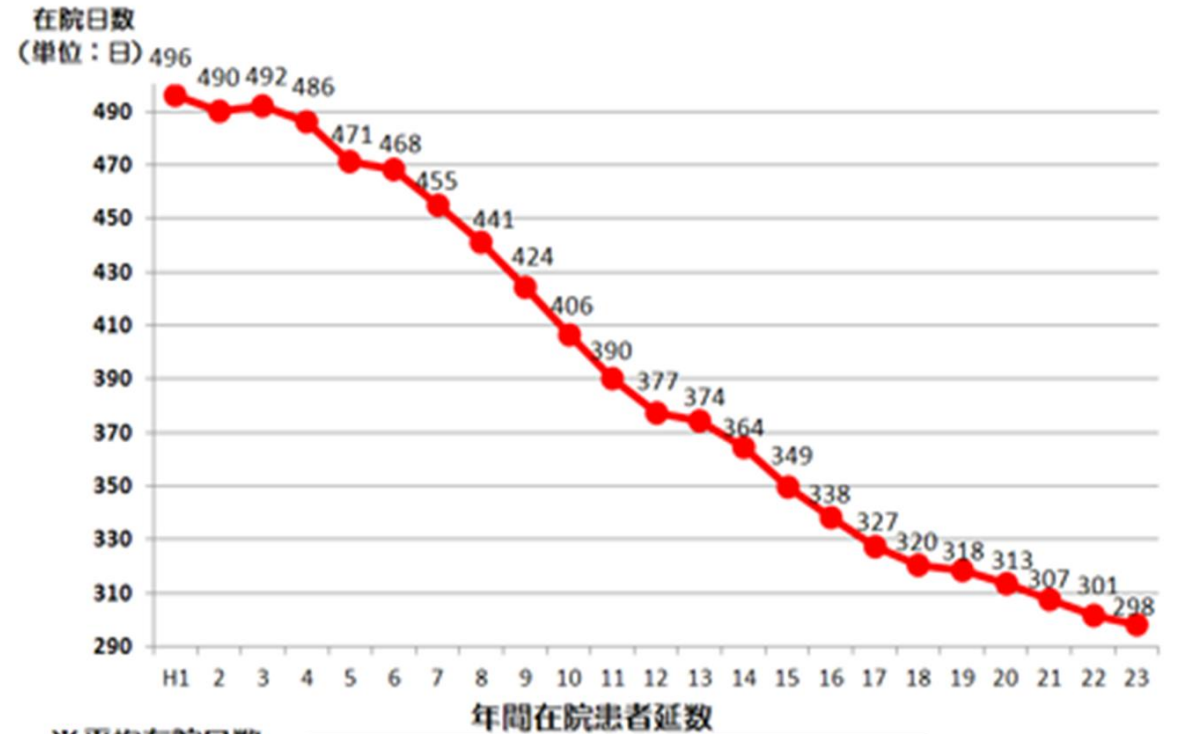
資料：患者調査

平均在院日数は減少傾向ではあるが、各国と比較すると突出して長い。

退院患者の平均在院日数  
OECD Health Data 2005



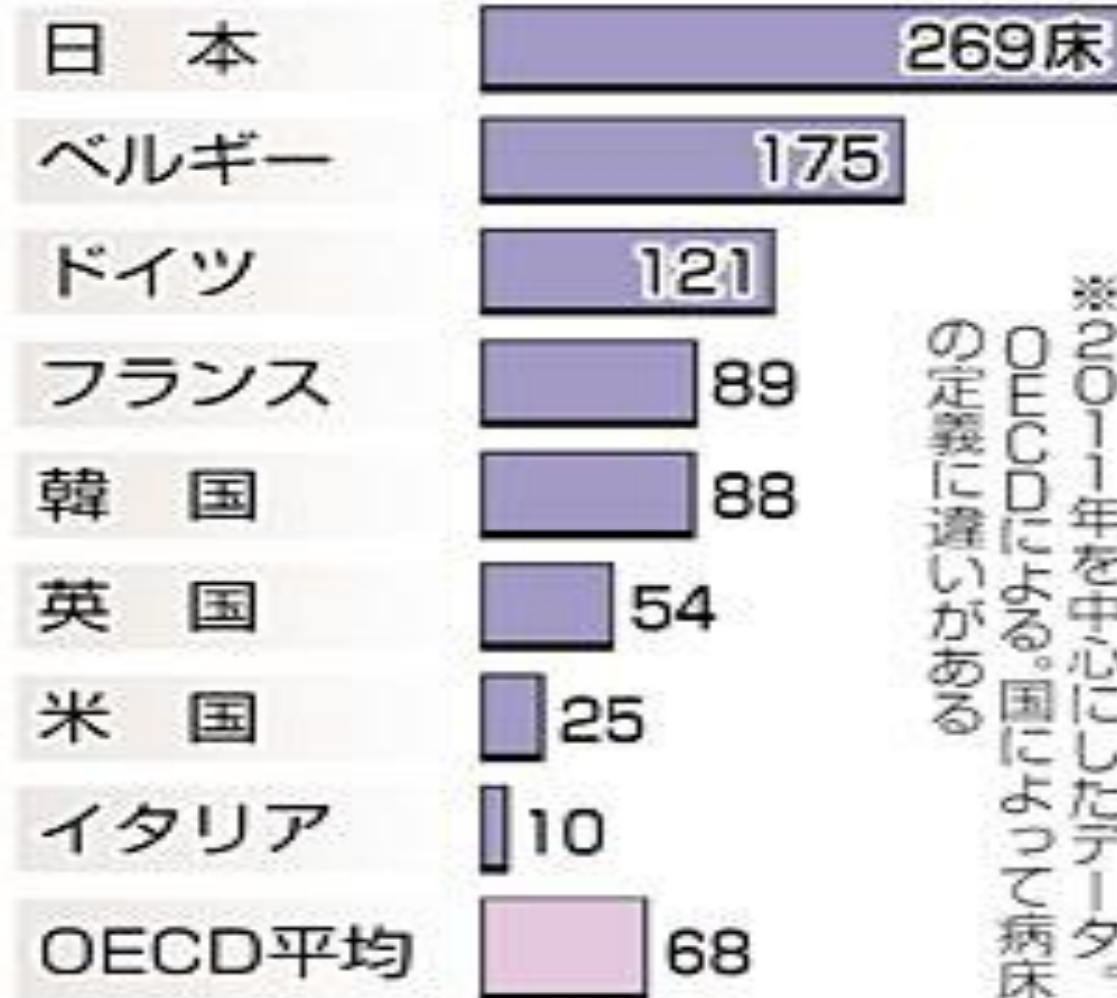
精神病床の平均在院日数の推移



※平均在院日数 =  $\frac{\text{年間在院患者延数}}{\frac{1}{2} \times (\text{年間新入院患者数} + \text{年間退院患者数})}$  資料：病院報告

# 病床数が格段に多い日本

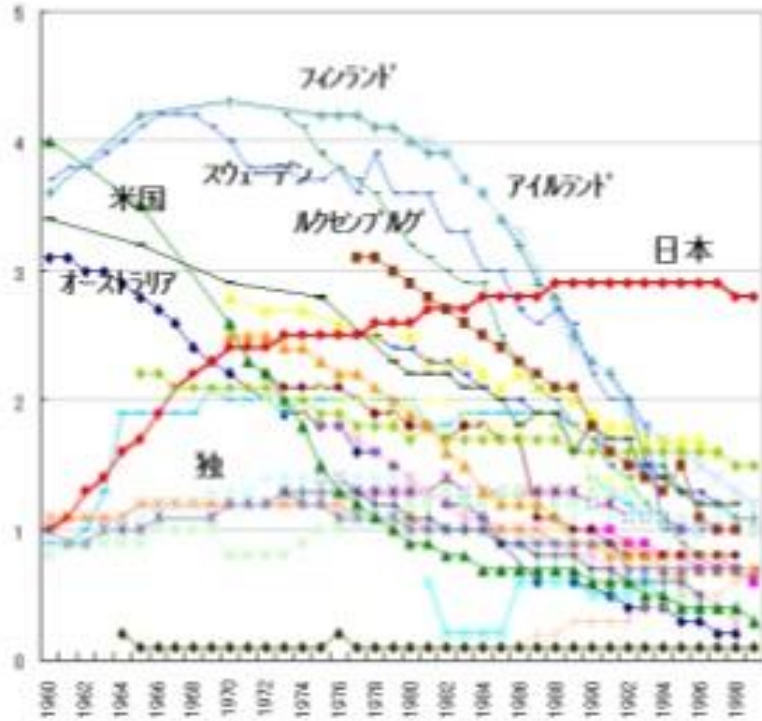
## 人口10万人当たりの 精神科病床数



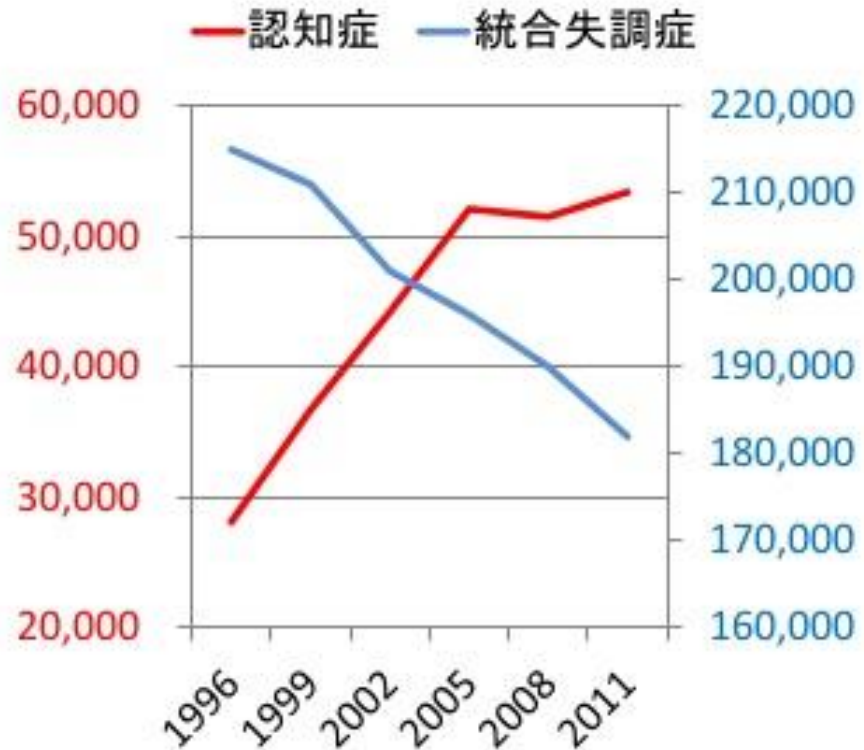
※2011年を中心としたデータ。  
OECDに属する国によって病床  
の定義に違いがある

# 精神科病床の問題

OECD加盟国の人口1000人あたりの精神科病床数



日本の精神科病床への入院数の推移



⇒精神異常者は病院に閉じ込めておく、という体質が未だに続いている

# 日本では地域で支えるシステムが進んでいない。

地域で暮らす精神障害者のための施設を建てようとしても、住民の反対で実現がはばまれるという事態も起こっている。

精神障害者が事件を起こした時はセンセーショナルに報道されるが、地域で地道に暮らしている精神障害者の姿を報道することはあまりない。精神障害者と身近に接する機会が少ないために偏見や差別が解消されないという悪循環が生じている。

# 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 (精神保健福祉法)

- ①精神障害者の医療および保護を行うこと
- ②精神障害者の社会復帰の促進および自立と社会経済活動の参加の促進のために必要な援助を行うこと
- ③精神疾患の発生の予防や国民の精神的健康の保持・増進に努めること

# 自殺の国際比較(2009年WHO報告)

順位	国名	(人/10万人)
1	ベラルーシ	35.1
2	リトアニア	30.4
3	ロシア	30.1
4	カザフスタン	26.9
5	ハンガリー	26.0
6	日本	24.4
9	韓国	21.9
18	スイス	17.5
19	フランス	17.0
26	中国	13.9
43	アメリカ	11.0
67	イギリス	6.4
68	イタリア	6.3
95	イラン	0.2
102	エジプト	0.0

## 自殺死亡率ワースト10（2013年以降の最新データ比較）

①リトアニア	30.8
②韓国	28.5
③スリナム	24.2
④スロベニア	20.5
⑤ハンガリー	19.5
⑥日本	19.5
⑦ラトビア	19.2
⑧ウクライナ	18.6
⑨ベラルーシ	18.4
⑩エストニア	18.3

※5位と6位は小数点第2位以下で順位付け

## 日本以外の主要国の自殺死亡率（11～14年のデータ）

ロシア	21.8
フランス	15.1
米国	13.4
ドイツ	12.6
カナダ	11.3
イギリス	7.5
イタリア	7.2

（いずれも厚労省の自殺対策白書から。10万人あたりの人数）

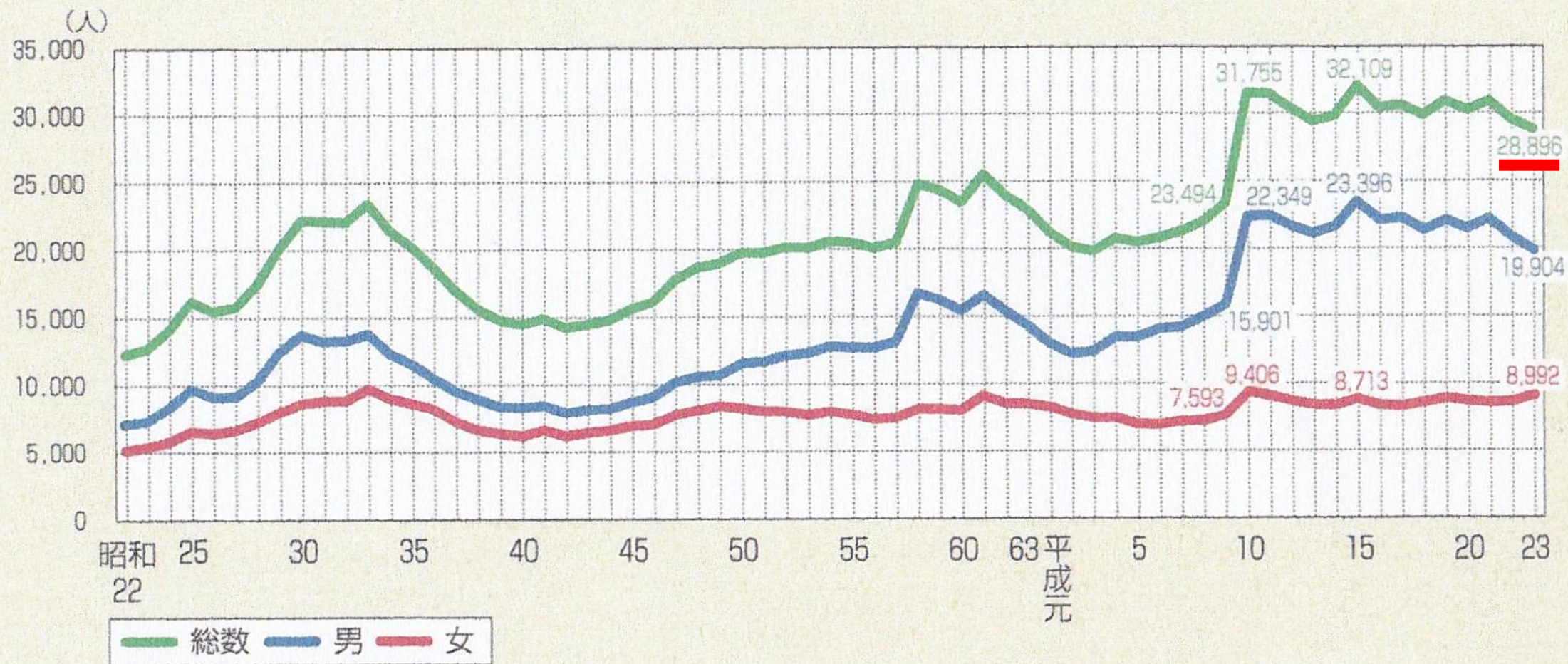
ト10（10万人あた

自殺死亡率  
[PR]

省の自殺対策白書から



- 自殺死亡率は統計の信頼性や更新頻度が国によって異なるため単純な比較が難しく、世界保健機関（WHO）が2014年に初めてまとめた「世界自殺レポート」でも順位付けはしていない。厚労省はWHOのデータベースを使い、13年以降の人口と自殺者数が把握できている中から上位国を抽出した。
- 日本の14年の自殺死亡率は19.5で、アジアではワースト2位で韓国の次に高い。男性（27.7）は同12位、女性（11.7）は韓国、スリナムに続き同3位。主要8カ国（11～14年）との比較では、ロシアの21.8に次いで高かった。
- 警察庁の自殺統計によると、16年の自殺者数は2万1897人（男性1万5121人、女性6776人）で、03年の3万4427人をピークに減少傾向が続いている。しかし、自殺が最も多い中高年の男性に比べて若年層は減り幅が小さく、白書は「20～30代の自殺死亡率を低下させることが課題」と分析している。



資料／厚生労働省「人口動態統計」

図6-10 ● 自殺者数の長期的推移 (人口動態統計)